

令和2年度 加藤学園高等学校 自己評価表(結果)

加藤学園高等学校長

加藤瑠美子

加藤学園高等学校関係者評価委員会委員長

尾崎 庸夫

学校教育目標

建学の精神である校訓「至誠」は人間の最も大切な心構えであり、創立以来不変の教育理念として継承されている。教育は、知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあるが、徳育の最高目標として、「至誠…まごころを尽くす」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指す。

今年度の重点目標

- | | | |
|------------------------|-------------------------|-----------------|
| ア 生徒一人ひとりを大切に、豊かな心を育てる | イ 保護者・生徒が安心・満足できる学校づくり | ウ 生徒の希望に沿った進路指導 |
| エ 基本的生活習慣の徹底 | オ 校友会活動への積極的参加、文武両道を目指す | カ 国際理解教育の推進 |

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
徳育	建学の精神の実践	目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行と瞑想の徹底。 清掃指導の充実。 ボランティア活動の実施。 授業充実のために教室内外の環境整備を心掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> チーム・ティーチング授業を実施している。 週のはじまりは挨拶強化の日としているが、マスク着用の影響もあり徹底するのが難しい。 担任は清掃指導に当たるようにしているが、教員の目が行き届かない場所が部分的にある。 本年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、ボランティア活動は計画していない。 進学部・総合学部3年生で実施している「いのちのライフプラン」講座は、大変好評であった。来年度も継続して実施していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 原点に立ち返り、これからの時代に求められる「至誠」とは何なのか。教職員と生徒全員で考える機会をつくり課題解決に繋げてほしい。 学校へ訪れる度に、生徒が立ち止まり大きな声で挨拶をしてくれます。毎回とても感動し嬉しく思います。教室もとても綺麗になっており、安心感があります。 校訓「至誠」が日々の学校生活でどの程度実践されているのかと思う場面がある。まずは先生方の実践を。
校友会	校友会活動への積極的参加	校友会活動を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自立性、規律性、人間性、社会性の向上に努める。 達成目標を掲げ、心身の鍛錬に励み相互の信頼関係を構築する。 1年生は原則全員が校友会活動に入部する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、挨拶の徹底や校則の遵守など、人間性や社会性を高めるための指導を行っている。 1年生は全員入部を原則としている。 本年度は多くの大会が中止となったが、実施できた大会においては素晴らしい成果をあげた。 柔道部: 全国高校柔道選手権県予選団体・個人とも優勝(4連覇)し全国大会出場。 野球部: 2020年甲子園高校野球交流試合に出場し3-1で鹿児島城西に勝利。 チアリーダー部: 全日本チアダンス選手権大会(ビデオ出場) Pom部門高校生編成Large全国9位。USA Nationals2021 Songleading部門とJazz部門で全国大会出場。 ソフトボール部: 静岡県高等学校新人ソフトボール大会2位。東海大会進出と全国大会出場を決めた。 陸上競技部: 全国高等学校陸上競技大会2020男子ハンマー投げ出場。 化学部: 生徒理科研究発表会東部支部大会最優秀賞を受賞し県大会へ出場。全国ユース環境活動発表大会関東地方大会(動画出場)優秀賞受賞。 食品研究部: 寿太郎みかんスイーツメニューコンテスト(沼津市主催)グランプリ受賞。作品名「寿太郎カスタードケーキ」。 	A	<ul style="list-style-type: none"> この状況下は校友会活動の意義や目標を見直す機会となった。今後も生徒主体の活動をしっかり支援できる学校体制を維持して行ってほしい。 部活動の活躍は本当に素晴らしいものである。 すべての部の活躍がとても素晴らしいと思います。大会ができなかったこと、とても悔しく思います。生徒が発表できる場を増やしてほしいです。 目標に向かって人間性を高める指導を行い、素晴らしい成果をあげていることは信頼関係の証であると思います。 日々の努力が実る良い結果に感動しております。 原則全員が校友会活動に参加が良い。 学校のホームページや会報などで、成果を出した部活も多くまた、頑張っている様子が伝わってきました。
学校安全	安全管理の充実	防災訓練の実施と安全管理の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の定期的実施。 安全管理マニュアルの確認と対応。 防災避難用設備の改善。 防災上の調査・点検・研究。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練(8月20日)・火災訓練(12月10日)を実施し、生徒の防災に対する意識向上に努めている。 安全管理マニュアルを確認し、緊急時の対応が迅速にできるようにしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> より具体的な防災訓練にしていくための工夫や実践を積み重ね、ケースごとの緊急時対応を研究していきたい。 保護者に対しても、大震災が起きた時の対応を年1回は生徒と確認しあうよう呼びかけてほしい。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る	<ul style="list-style-type: none"> 各部・各コースの特性を活かし「生徒一人ひとりの能力を引き出す授業」を展開する。 教科研鑽に努める。 授業アンケートを活用し、生徒の要望に応える。1学期末と2学期末の2回実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策として休校期間があったため、2か月間対面授業を実施することができなかった。そのためICT(iPad)を活用した授業や課題提出等を実施し、授業進捗の確保に努めた。 休校期間にZOOM等を活用したホームルームを実施したり、動画授業を配信したりした為、教職員のICT活用能力は前年度よりも向上した。 本年度は授業進捗確保の為、授業アンケートの実施は中止した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善は教員だけではなく生徒の問題でもある。ICTを切り口としていきたい。 休校期間中の授業の進みが保護者に見えなかったが、コロナ禍の中、先生方のご苦労と努力に感謝します。 社会・産業の変化を考える時。 休校期間中にZOOMでのホームルームがあり対応が良かったと思います。
		個に応じたきめ細かな指導を行う	<ul style="list-style-type: none"> 副教材を積極的に活用し、基礎学力を定着させる。 英検・漢検・情報処理検定等の資格取得にチャレンジする。 学習日誌を継続し、生徒個々との対話と情報収集を心掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 休校期間においては、Classiやスタディサプリ等のデジタルコンテンツの活用を積極的に実施し、学習時間の管理や模擬試験に向けた取り組みを実施した。 スカイプを利用しての個別英会話授業を実施したが、ネットワーク環境が悪くスムーズに接続できなかった。ネットワーク環境の改善が求められる。(特進1年) 検定試験については、英検(全学年)や情報処理検定(2年)を全員受検とし、昨年度よりも多くの生徒が資格取得できた。また、漢字検定や数学検定・歴史検定・ニュース検定等の受検も呼び掛け、学年単位で受検するなど多くの資格を取得できるようにしている。英検指導は、英語科を中心として取り組んでいる。 進学部と総合学部のVC(ボキャブラリーコンテスト)においては、iPadを活用し、個々に応じた追試験の実施など英単語学習の向上に繋がっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かな指導が活きるためには、考慮された働きかけと反応を受け止める態勢が重要と思う。ICTの積極的活用を期待したい。 英検取得に更に力を入れて頂きたい。 iPadの有効的な活用等、授業の工夫がされていると思います。 資格取得等、社会に連携する学びを大切に。 全生徒がより多く取得できるようご指導いただきました。チャレンジすることで試験にも慣れ良かったです。
教職員質向上	教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業を年間2回土曜日に実施し、保護者の参加を促す。 教科担当者は定められた期間内に研究授業を実施する。 模擬授業(カンファレンス)の実施。 学内の職員研修実施。 私学人として誇りを持ち、生徒の見本となる節度ある言動・服装を常に意識する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の為、本年度の公開授業は部活動見学と合わせ、200名限定の申し込み制として11月7日の土曜日に1回だけ実施した。在校生の保護者のほか中学生とその保護者を含め、授業を見学し、多くの意見を頂いた。 本年度のカンファレンスは中止とした。 校内職員研修は、4月と8月の年2回、新任研修は4月と8月の年2回実施している。新任教員が毎年いる為、研修以外にも日々の業務の中で、私学人としての在り方を伝えていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 閉鎖的な研修としないためには公開は大切だがコロナ禍では支障がある。他校との連携を含めた幅広い研修を模索すれば、相互の刺激が期待できるのではないかと。 コロナ禍、公開授業を実施して頂きとてもありがたかった。 加藤学園教師としての姿勢等、時々には考え実践することが必要かと思えます。 優先順序を大切にしてください。 熱心な先生が多いと思います。
進路指導	進学・就職へ向けての指導体制の確立	生徒の進学・就職希望の実現を図る	<ul style="list-style-type: none"> 始業前・放課後の補習と個別指導の実施。 長期休暇中の補習の実施。 各種検定・資格取得に積極的に取り組む。 特進部と進学部の一部は、一般受験に挑戦し、県内の4大学を含む国公立大学30名以上、早慶上理、GMARCIH、関関同立に30名以上の合格を目指す。 校内進学相談会を効果的に運用する。 長期休暇中の教員の外部講習への参加。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の新入試初年度であり、教員も生徒も大学からの情報が遅れたり、オープンキャンパスが開催されない中、模索しながら個々の受験に対応した。例年開催する校内進学相談会も中止となり、関東圏ではなく地元で進学したいという生徒が多かった。総合型・学校選抜型入試ではオンライン面接もあり、慣れない入試に苦労した。 休校時にはロイノート、ZOOM等を活用してオンライン授業を実施した。また、特進部は全員スタディサプリに加入し、自学の充実をはかり、この期間に力をつけた生徒は良い結果を残した。 国公立大学の合格 東北・千葉(2)・東京都立(2)・横浜市立・静岡県立(3)・静岡文化芸術(2)・群馬(4)・宇都宮・茨城・山形・山梨・富山など合計34名 難関私立大学の合格 上智・東京理科・学習院・明治(2)・立教(3)・青山学院(2)・中央(4)・法政・同志社(3)・立命館(8) など 看護医療ガイダンスをZOOMも含めて3回実施し、医療人としての心構え、面接練習の講義を受け、実際の入試に非常に役立った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> イレギュラーな状況に対し、できることを見つけ実践してきたことは今後生きてくる。 大学合格実績は大変に素晴らしいものです。 生徒一人ひとりへの細かい指導、とても素晴らしいと思います。面接指導においては、実際に働いている方にお話しを伺うこともでき、本番で発揮することができた。 個別指導の取り組みによって生徒のやる気を生み、良い結果を残していると感じます。 厳しい中での個々の指導は本当に大変だったと思います。しかし、結果は年々上向きの状況にあり、地域や保護者のみなさんからの信頼もますます厚くなると思います。 休校が続いて、先生も生徒も不安だったと思いますが、二者面談を多く実施していただき、その中で生徒は目標に向かい、進路を決めていくことができたと思います。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	外部評価	学校関係者からの意見
生徒指導	生徒の人間力と加藤学園プライドの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の育成 ・礼儀・マナー・モラルの育成 ・基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の校則やその他の規則(特別指導・自転車マナー等)を生徒自ら理解し、遵守できる能力を身につけさせる。 ・現代社会で求められている人間力の向上を校内・外の学校生活で追求する。 ・不注意による遅刻を個人・HR集団で減少させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動は昨年比マイナス7件で減少、本人たちは反省している。発生に対し個人だけでなく全校にもタイムリーに伝え、原因と対策について対応してきた。また、規範意識の育成は、生徒指導の中でも一番重きを置いている。現在はネットを介した問題行動も多いため、来年度は危機意識の向上を目指し小集団でも複数回に分けて対策講座を実施し直接的に生徒に訴えたい。 ・今年度は、マスクエチケットと自転車マナーに関する苦情をいただいた。本校の伝統である「挨拶ができる学校」を維持するため挨拶強化週間を設け、意識の向上を試みているがまだ不十分のため、来年度は集団訓練や体育時にも挨拶訓練を強化していく。 ・遅刻調査とその都度の学年指導により2月末の遅刻率は0.35%(1日あたり3.36人)であり、目標の0.3%に近づいている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等のトラブル回避が重要となってきている。ICT教育の中でも取り扱い、加藤学プライド育成の重点として実践研究したらどうか。そのことがマナー全般を考える契機ともなるのでは。 ・登下校時のマナーの徹底をお願いします。 ・社会が変化する中での生徒指導、いつの時代にも適応できる規範意識こそ学ばせたいと思います。 ・校則や規則、良き経験者としてご指導ください。 ・自転車マナーの指導は、今後も続けて事故のないようにしてほしいです。
	保護者や地域住民から信頼される安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止教育 ・防犯教育 ・情報リテラシー教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会の活動を通しいじめ・嫌がらせの未然防止と早期発見・早期対応に努める。 ・貴重品の盗難や私物(物品・自転車)の盗難が起らない環境と自己防衛力の育成。 ・講座(情報リテラシー、消費生活等)が例年通りに計画できないため、学年・HR単位のネット教育にてネットに関するトラブルや被害・問題行動の未然防止に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大きないじめに繋がるケースは出てきていない。担任・学年の早期対応、指導のたまものと思われる。生徒同士の小さなトラブルも早期に対応できている。ただし、いじめは見えない所(ネット中心)で起きることも多いので引き続き学校全体でアンテナを高くし気を抜くことなく取り組まなければならない。 ・貴重品の盗難と自転車の盗難はゼロであった。コロナ対策もあり学年の見回りも多く緊張感も例年より高かったことも影響している。しかし、HRの施錠、部室の管理、自転車の施錠など自己管理は十分とは言えないので継続した指導が必要である。 ・SNSに不適切画像を投稿し問題行動が発覚したケースが10件あった。危機意識の低下と共に本校に対する不名誉行為の認識が不足している。また、不正アクセス(なりすまし)も2件あり、被害届を提出されると重大な犯罪行為ともなることから、来年度は新入生だけでなく2・3年生も再度周知するため新HR、学年集会等でも生徒指導重要事項として確実に伝達していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシーが課題となる。生徒自身が問題解決の主体となる仕組みについて研究実践を積み重ねたい。 ・情報社会の中でセキュリティの大切さを感じます。 ・ネットを介したトラブル等、解決も困難なことが多々あると思いますが、生徒一人ひとりの安全を守るため御尽力ください。生徒の中には、コロナに対する問題意識が薄いように感じる場合があります。ご指導をお願いします。 ・いじめアンケートは今後も継続してほしいです。
国際理解教育	国際理解教育の充実	国際理解教育の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・海外への修学旅行を実施。 ・短期留学を充実させ一層の促進をはかる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、修学旅行や短期留学が中止となった。 ・2年生の德育授業内で、国際教育を実施した。 ・ESS(部活動)において、スウェーデン・イタリア・台湾との交流を実施した。Skype(スカイプ)を利用して、直接の交流活動も実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍はある意味、国際理解教育の窓口となり得る。他国との交流をする中で、高校生世代の連携を推進していけたらと思う。 ・セブ島への留学で英語が大好きになった。コロナ禍であるが、実現可能なことを模索してほしい。 ・コロナ禍でもできる国際理解教育をますます促進されますように。Skypeが良いです。